

「いのち輝く花いちりん」

春を呼ぶ市民の舞台

第三十二回市民の舞台「遠野物語ファンタジー」いのち輝く花いちりんは二月三・四の両日、市民センター大ホールで開かれ、二千九十九人の観衆を魅了しました。今回は、江戸時代の遠野の町場を舞台に、目の見えない主人公サキを中心に、命の尊さや家族の絆を描いた物語で、キャスト・スタッフ総勢三百七十二人が作り上げた感動の舞台に惜しみない拍手が送られました。



新しい命の誕生とともに、大切な命との別れも経験する



目の見えない娘サキを残し、先立つ母



キャスト・スタッフ全員でファンタジーの歌を合唱し、感動の舞台は幕を閉じました



上=サキの目が見えるようにと願掛けに出掛けた祖母タカ。無事に帰宅し、久しぶりに家族に笑顔に戻る  
左=役者の演技を影で支える裏方の人たち。大道具や衣装、メイクなど316人のスタッフが参加しました。



本番前の楽屋。せりふの確認に余念が無い子役たち



第34回保育のつどい

第34回保育のつどい(市保育協会主催)は2月10日、市民センター大ホールで開かれました。市内の10保育園から年長組の園児約150人が参加し、父母らに日ごろの活動の成果を発表しました。



左上=かわいいカエルの家族を演じた遠野保育園の劇遊び「999匹のきょうだい」 左下=見事な刀さばき。附馬牛保育園の遊戯「一剣」 上=テンポの良いリズムで元気に演じた青笹保育園の表現「Pecori Night」

